

施設から住まいへ「暮らし」を提供するサービス

(社会福祉法人 長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園)

30年以上前から
「地域」を意識

「地域包括ケア」という言葉が生まれる以前から、施設利用者ができるだけ

住みなれた街で暮らしてもらおうと、多様なサービスを展開してきた長岡福祉協会。「高齢者総合ケアセンターこぶし園」の前総合施

設長・小山剛さんと30年以上ともに歩み、2015年3月から総合施設長となった吉井靖子さんにお話をうかがいました。

「小山前施設長とは、最初は生活相談員と看護師として、そして『戦友』として長年一緒に仕事をしてきました。昭和57年に『特別養護老人ホームこぶし園』



高齢者総合ケアセンターこぶし園
吉井 靖子 総合施設長

が100床の規模でスタートしたのでありますが、あるとき面会のご家族が帰られる際、ご利用者様に『こんな所に置いてごめんね』とおっしゃるんです。こんな所なの？とシヨックで。ご自宅から遠い施設に入らなくても済むように、まずは短期間の

ショートステイをはじめました」

その際の事前面談(アセスメント)で、吉井さんたち職員は厳しい現実を目の当たりにしたそうです。部屋じゅうに物が散乱して家にながれる状況ではなかったり、食事を3食摂られていなかったり、明らかに感染症になつている様子だったり…。

「さまざまな課題や、在宅サービスの限界が見えてきたように感じました。その問題にひとつひとつ対応してできあがったのが、現在のこぶし園といえると思います」

利用者を住みなれた地域へ戻す

こぶし園では2006年頃から、すでに施設に入っている利用者も住みなれた地域に帰れるよう、施設の分散に取りかかりました。100

床の特養を、1か所の本体施設と4つのサテライト施設に分散。さらに、自宅への訪問と施設の通いを組み合わせた「小規模多機能型居宅介護」、自宅への定期的な巡回などが受けられる「定期巡回・随時対応型訪問介護・看護」、ケアプランを作成してくれる「居宅介護支援事業所」、自宅への「配食サービス」など、さまざま機能を備えたサポーターセンターを長岡市内に18か所設立しています。

地域福祉の総合拠点として

サポーターセンターは、施設の利用者やご家族だけでなく、一般の地域住民も活用しやすい「場」として開放。近所の子どもが自由に遊べるキッズルームや、町内の寄り合いなどに使える交流スペースを提供しています。

「今の子どもたちは高齢者とふれあう機会が少ないですよ。多少なりとも普段からお年寄りに接するこ

とで、やさしい心を育てる福祉教育にもなればと思っています」

診療所やフィットネス施設を併設したサポーターもあり、まさに、医療、介護、介護予防、生活支援といった地域包括ケアシステムの要素がまるごと含まれています。

「高齢者の方々が住みなれた地域で暮らし続けるお手伝いをしたいという想いは、今も昔も変わりません。地域包括ケアシステムの完成に向けて、事業を軌道に乗せ、今後は医療との連携に一層力を入れていきたいと思っています」



社会福祉法人 長岡福祉協会

高齢者総合ケアセンターこぶし園

所 長岡市深沢町2278-8

問 0258-46-6610

<http://www.kobushien.com>